

資料2

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会
(第13回)R8.3.2

大学図書館における AIへの対応

杉田茂樹（京都大学附属図書館）

令和8年3月2日

「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会

お題：“実務を預かっておられ現場をよく知る立場から、以下を中心にプレゼンを”

(2) 大学図書館のサービス業務・管理運営業務へのAI利活用

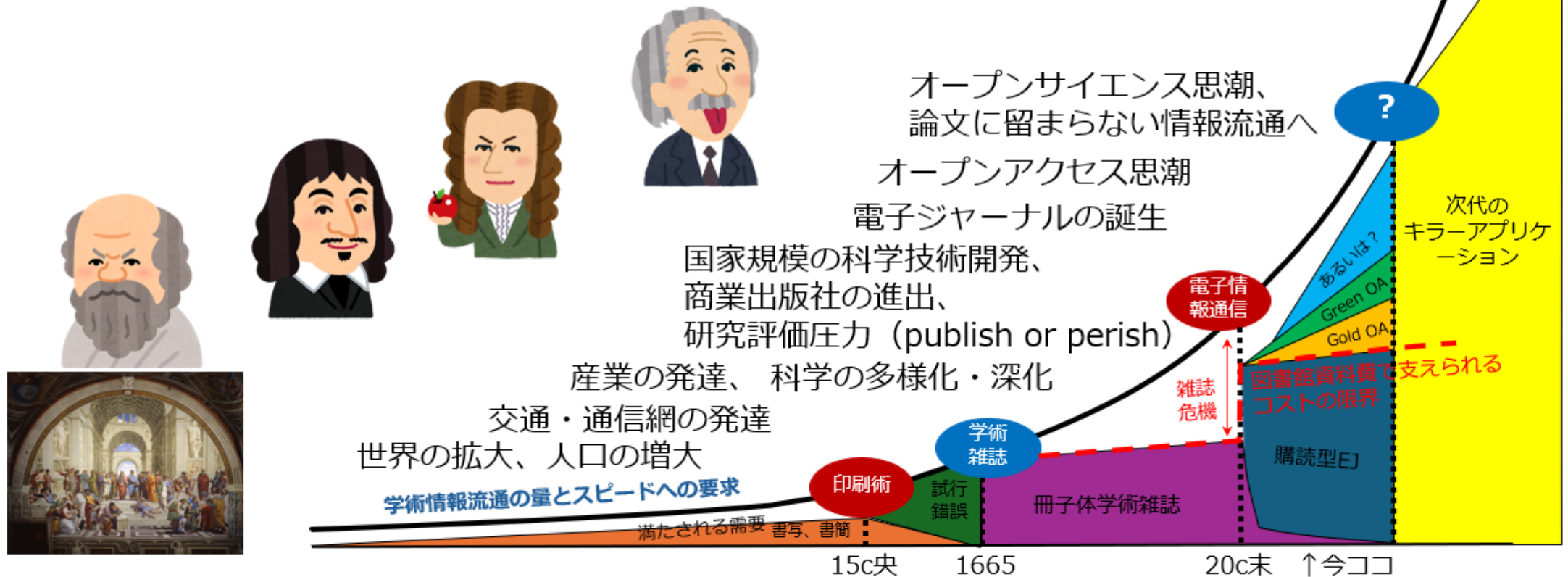
1. AIの利活用により、どのようなサービス業務や管理運営業務で、効率化や高度化が見込まれるか。また、どのようなサービスが新たに創出できるのか。
2. AIの利活用になじまない、あるいはAI技術を利用しても効率化や高度化が見込めないサービス業務や管理運営業務は、どのようなものがあるか。

(4) AI時代における大学図書館職員

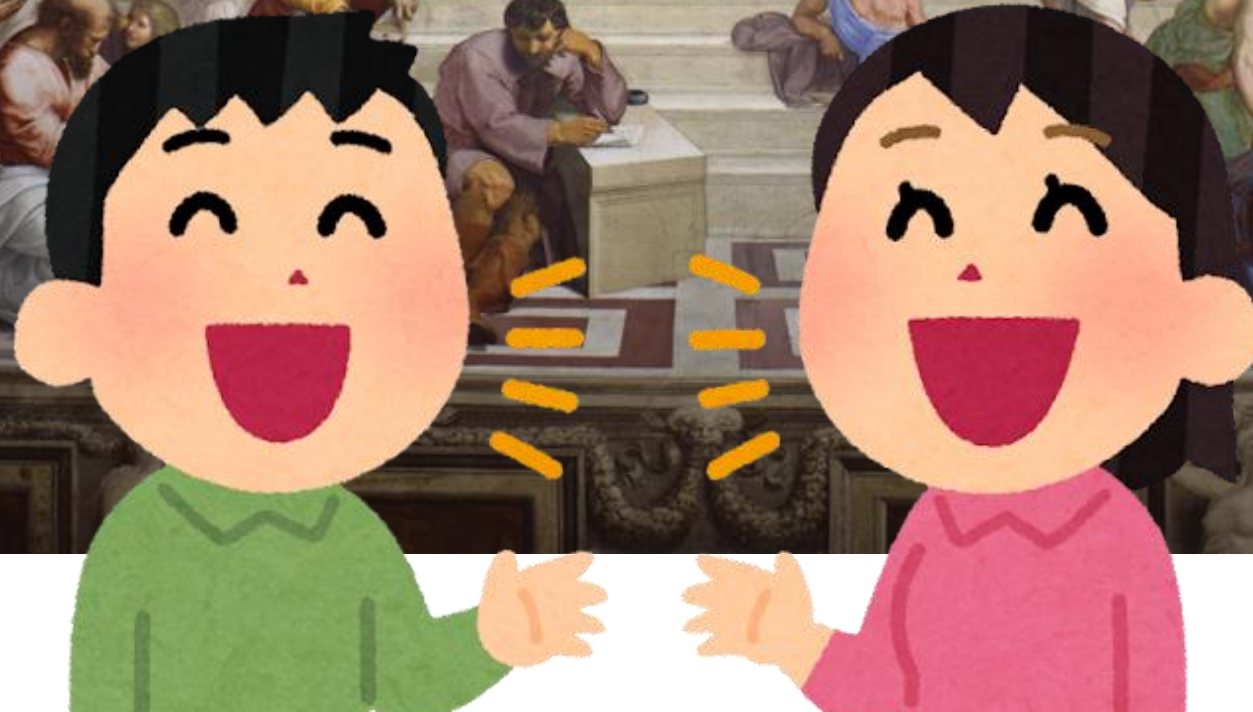
1. AI時代において、学習支援や研究支援に携わる大学図書館職員像とはどのようなものか。
2. AIを利用したサービス業務や管理運営業務において、当該業務に従事する職員には、どのような知識・スキルが必要になると考えられるか。
3. AI時代におけるデータ・キュレーター等の研究データマネジメント業務において、大学図書館職員はどのような役割で貢献できるか。そのために、どのような知識・スキルが必要になると考えられるか。
4. その他、AIの急速な浸透に伴い、新たに期待される業務は何か。

知識流通と大学図書館の役割についての私見

学術情報流通の進展 =量とスピードに対する需要と 技術革新のいたちごっこ



直接問答を交わせる理想郷



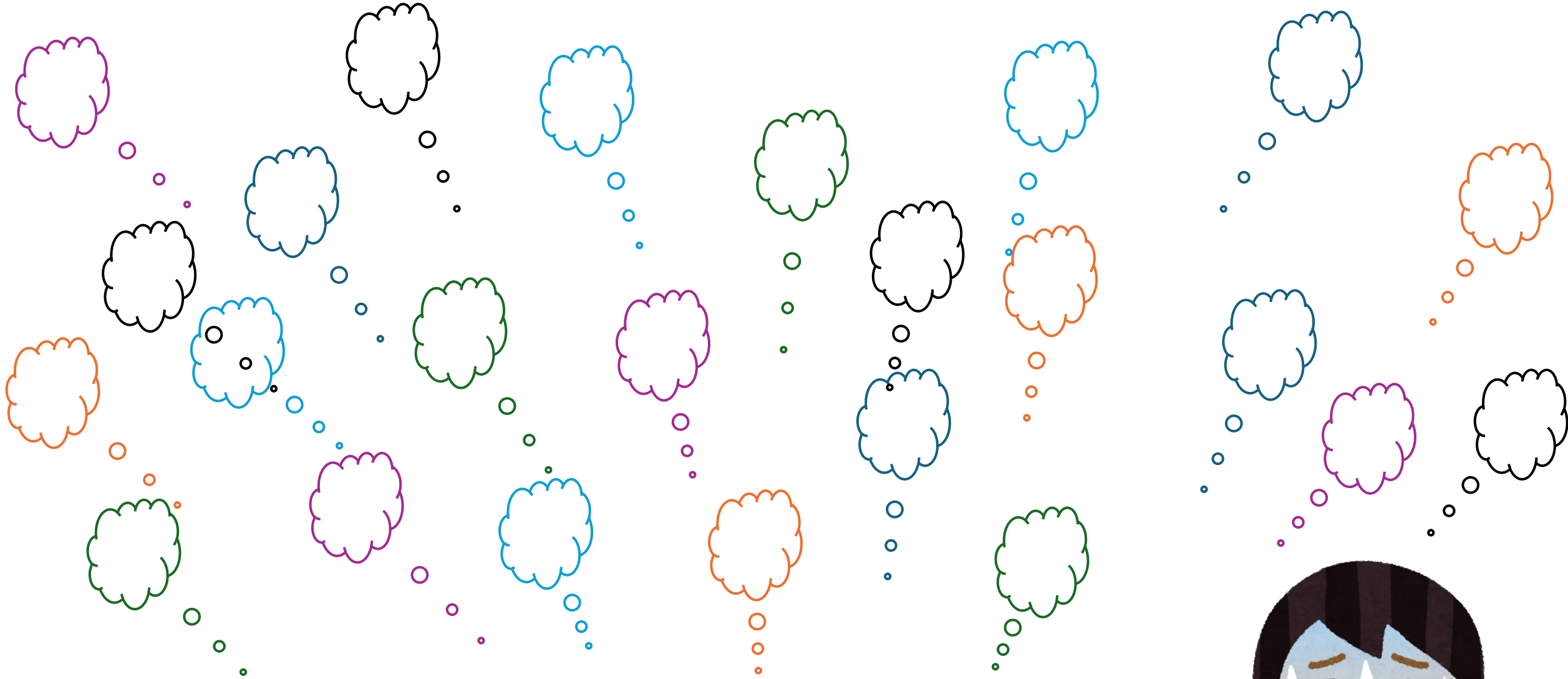


遠隔コミュニケーションの必要性



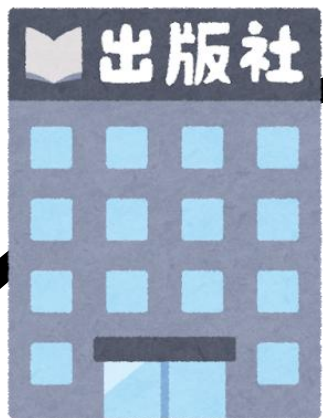
世界の拡大





**しかし、世界には知識／情報が
たくさん、分散してあり過ぎる**





知のパッケージング



遠隔コミュニケーションの必要性

↑
世界の拡大



単館目録、総合目録、 参考調査業務、 代行検索、 情報リテラシー、 ：



**世界の知識を探し、
アクセスするための、
バッドノウハウの発達**
(省エネルギー/CT OR リチウムイオン
電池/CT OR 再生エネルギー/CT)
AND 自動車/CT

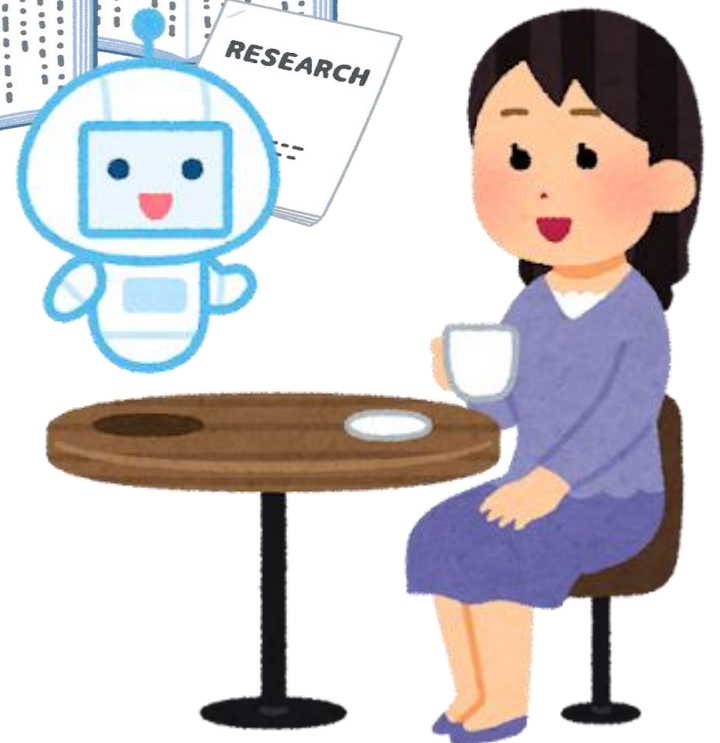




**世界中の知識に自然言語で
アクセスできる時代の到来**



**図書館の従来型機能を
引退させられる！**



~~ハルシネーション？
プロンプトエンジニアリング？
AI利用リテラシー？~~

：

こういう課題は
すぐに乗り越えられる



「2030デジタル・ライブラリー」推進に関する検討会



備えるべきは **2026ではなく2030** (あるいはAGI)

なお、リテラシー云々は初中等教育の仕事

大学図書館のサービス業務・管理運営業務へのAI利活用

- 業務全域において効率化・高度化
 - 世の中のあらゆるビジネスの、AIによる効率化・高度化と同じ
- (デジタルシフトはあれ) 新たなサービスは生まれない
 - 「AIを活用した高度なレファレンス」? → ユーザは直接AIを使う
- それより、われわれは目録や参考調査や情報リテラシー業務をいつ、どのような環境条件が整ったときに廃止するか

AI時代における大学図書館職員

- 民間トップ企業社員と同等以上のAI活用スキル
 - 情報収集・抽出・分析、翻訳、プログラミング、資料制作、壁打ち、シナリオシミュレーション、意思決定
 - AIが何を変えうるかを先入観抜きで考え尽くす客観性
 - 職域の保全を前提としない
 - ダメージコントロールを指向しない
- × どうすればAIを用いてメタデータ整備を効率化できるか (D)
- どうすればメタデータを作らず持たずに済ませられるか (X)

AI時代における大学図書館職員

4. その他、AIの急速な浸透に伴い、新たに期待される業務は何か。



大学 = 知を消費する場ではなく、知を生産する場

→ 研究生活から生まれる知（表出され固定されるものばかりではない）を、人類の知に組み込み、豊かにしていく方向の活動（+ 過去に生み出され蓄積された知識の再生も）



直接問答を交わせる理想郷